

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養科目群	発達・行動・心理	心理学	2		15		15							榎本 光邦	榎本 光邦	
		生命倫理	2		15		15							磯部 太一	磯部 太一	
		教育学	2		15		15							横井 利男	横井 利男	
		教育情報論		2	15		15							西谷 泉	西谷 泉	
		教育心理学		2	15		15							原 芳典	原 芳典	
		医療民俗学		2	15		15							板橋 春夫	板橋 春夫	
		健康スポーツ理論		2	15		15							鈴木 聡子	鈴木 聡子	
		健康スポーツ実技		1	15		15							鈴木 聡子・衣川 隆	鈴木 聡子	
	言語と文化	英語Ⅰ	1		15		15							杉田 雅子	杉田 雅子	
		英語Ⅱ	1		15		15							杉田 雅子	杉田 雅子	
		英語表現		1	15		15							柴山森二郎	柴山森二郎	
		ステップアップ英語Ⅰ		1	15		15		15					柴山森二郎	柴山森二郎	
		ステップアップ英語Ⅱ		1	15		15		15					杉田 雅子	杉田 雅子	
		英文講読Ⅰ	1		15		15			15				杉田 雅子	杉田 雅子	
		英文講読Ⅱ		1	15		15				15			杉田 雅子	杉田 雅子	
		中国語		1	15		15							深町 悦子	深町 悦子	
	ロシア語		1	15		15							青木 順	青木 順		
	人と社会・生活	家族学	1		15		15							坂本 祐子	坂本 祐子	
		情報処理	1		15		15							西谷 泉	西谷 泉	
		法学（日本国憲法含む）	2		15		15							斎藤 周	斎藤 周	
		環境学		2	15		15							西菌 大実	西菌 大実	
		ジェンダー論		2	15		15							内藤 和美	内藤 和美	
		地域社会学		2	15		15							坂本 祐子	坂本 祐子	
		ボランティア活動論		1	15		15							竹澤 泰子	竹澤 泰子	
		経済学		2	15		15							飯島 正義	飯島 正義	
		大学の学び入門	1		15		15							杉田・浅見・榎本	杉田 雅子	
		生物学基礎	1		15		15							佐藤久美子	佐藤久美子	
	基礎教育	数学基礎	1		7.5		7.5							栗田 昌裕	栗田 昌裕	
		化学基礎	1		7.5		7.5							日置 英彰	日置 英彰	
		英語基礎	1		7.5		7.5							柴山森二郎	柴山森二郎	
		計（卒業要件）				27										
		専門基礎科目群	臨床科目群	解剖学Ⅰ	2		30		15	15						浅見知市郎
	解剖学Ⅱ				1	15		15							浅見知市郎	浅見知市郎
臨床解剖学				1	7.5		7.5				7.5			浅見知市郎	浅見知市郎	
生理学	2				30		15	15						洞口 貴弘	洞口 貴弘	
臨床生理学				1	7.5		7.5				7.5			洞口 貴弘	洞口 貴弘	
生化学				1	15		15							亀子 光明	亀子 光明	
疾病の成り立ち	1				15		15							栗田 昌裕	栗田 昌裕	
臨床病理学				1	7.5		7.5				7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕	
免疫・感染症学	1				15		15					15		藤田 清貴・高橋 克典	藤田 清貴	
薬理学	1				15		15							栗田 昌裕	栗田 昌裕	
臨床薬理学				1	7.5		7.5				7.5			栗田 昌裕	栗田 昌裕	
臨床検査学	1				15		15					15		小河原はつ江	小河原はつ江	
緩和医療学				1	7.5		7.5				7.5			斎藤(能)・小林(剛)・大井	斎藤 龍生	
病態栄養学				1	15		15							後藤 香織	後藤 香織	
発達心理学	1				15		15							榎本 光邦	榎本 光邦	
臨床心理学				1	15		15							森 慶輔	森 慶輔	
地域科目群	公衆衛生学			2		15		15							石館 敬三	石館 敬三
	疫学				1	15		15							石館 敬三	石館 敬三
	保健統計			1	15		15							石館 敬三	石館 敬三	
	社会福祉・社会保障制度論		1		15		15							矢島 正栄	矢島 正栄	
	地域保健行政		2		15		15				15			矢島 正栄	矢島 正栄	
	栄養学(含食品学)		1		15		15							後藤 香織	後藤 香織	
	歯科保健		1		15		15							浅見知市郎	浅見知市郎	
	チーム医療論			1	15		15							藤田・小河原・亀子・伊藤・木村	藤田 清貴	
	リハビリテーション概論			1	7.5		7.5							松澤 正	松澤 正	
	救急法			1	15		15				15			北林 司・小池菜穂子	北林 司	
	健康管理論			1	15		15							下村洋之助	下村洋之助	
	カウンセリング			1	7.5		7.5				7.5			森 慶輔	森 慶輔	
社会福祉・地域サービス論			1	15		15							金谷 春代	金谷 春代		
計（卒業要件）					23											

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1		7.5		7.5							真砂 涼子	真砂 涼子
		看護学概論Ⅱ	1		7.5		7.5							真砂 涼子	真砂 涼子
		看護援助学Ⅰ	1		15			15						真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
		看護援助学Ⅱ	1		15				15					真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
		看護援助学演習Ⅰ	2		30			30						真砂・上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		看護援助学演習Ⅱ	2		30				30					真砂・上星・馬醫・佐藤	馬醫世志子
		看護過程論	2		30			15	15					真砂・上星・馬醫・佐藤	上星 浩子
		基礎看護学特論		1	7.5							7.5		真砂 涼子・上星 浩子	真砂 涼子
	成人看護学	成人看護学総論	1		7.5			7.5						牛込三和子	牛込三和子
		成人看護学Ⅰ	1		15			15						牛込三和子・栗田 昌裕	牛込三和子
		成人看護学Ⅱ	1		15				15					牛込三和子・小林 功	牛込三和子
		成人看護学Ⅲ	1		15				15					牛込・酒井・鈴木・萩原・荒木	牛込三和子
		成人看護学Ⅳ	1		15					15				牛込・鈴木・萩原・及川	鈴木 珠水
		成人看護学Ⅴ	1		15					15				酒井・萩原・小池・及川	酒井美絵子
		成人看護学演習	1		15					15				酒井・鈴木・萩原・小池	鈴木 珠水
	成人看護学特論		1	7.5							7.5		牛込三和子	牛込三和子	
	老年看護学	老年看護学総論	1		7.5			7.5						伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		老年看護学Ⅰ	1		15				15					伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		老年看護学Ⅱ	1		15				15					伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
		老年看護学演習	1		15					15				伊藤まゆみ・川久保悦子	伊藤まゆみ
		老年看護学特論		1	7.5							7.5		伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
	小児看護学	小児看護学総論	1		7.5			7.5						野田 智子	野田 智子
		小児看護学Ⅰ	1		15			15						矢島・井笠・小林(敏)・土屋	矢島 正栄
		小児看護学Ⅱ	1		15				15					野田 智子	野田 智子
		小児看護学Ⅲ	1		15					15				野田 智子・柴崎 由佳	野田 智子
		小児看護学特論		1	7.5							7.5		野田 智子	野田 智子
	母性看護学	母性看護学総論	1		7.5			7.5						早川 有子・益永 陽子	早川 有子
		母性看護学Ⅰ	1		15			15						早川 有子	早川 有子
		母性看護学Ⅱ	2		30					30				早川・中島・横田・益永	中島久美子
		母性看護学特論		1	7.5							7.5		早川 有子	早川 有子
	精神看護学	精神看護学総論	1		7.5			7.5						小林信・鎌田由美子	小林 信
		精神看護学Ⅰ	2		30					30				小林信・鎌田由美子	小林 信
		精神看護学Ⅱ	1		15					15				小林信・鎌田由美子	小林 信
		精神看護学特論		1	7.5							7.5		小林 信	小林 信
	統合分野	在宅看護概論	1		7.5			7.5						小笠原映子	小笠原映子
		在宅看護論Ⅰ	1		15				15					小笠原映子・金井敏江	小笠原映子
		在宅看護論Ⅱ	2		30					30				小笠原映子・生須典子	小笠原映子
		看護の学び入門	1		7.5		7.5							牛込三和子他	牛込三和子
		臨床看護管理学	1		7.5						7.5			酒井美絵子	酒井美絵子
		災害看護論	1		7.5					7.5				矢島正栄・矢嶋和江	矢島 正栄
		国際看護論	1		7.5					7.5				辻村 弘美	辻村 弘美
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		30					30				矢島・中下・齊藤(玲)	矢島 正栄
		公衆衛生看護学Ⅰ		2	30						30			小林亜由美・廣田幸子	小林亜由美
		公衆衛生看護学Ⅱ		2	30						30			矢島・小林(亜)・廣田	小林亜由美
		公衆衛生看護学Ⅲ		1	15						15			廣田 幸子	廣田 幸子
		公衆衛生看護学Ⅳ		2	30						30			小林(亜)・廣田・一場	小林亜由美
		公衆衛生看護管理学		1	7.5						7.5			矢島正栄	矢島 正栄
助産学	基礎助産学Ⅰ		1	7.5						7.5			早川 有子	早川 有子	
	基礎助産学Ⅱ		1	7.5						7.5			早川 有子・横田 佳昌	早川 有子	
	基礎助産学Ⅲ		1	7.5						7.5			中島久美子	中島久美子	
	基礎助産学Ⅳ		2	30						15	15		早川 有子・中島久美子	早川 有子	
	助産診断技術学Ⅰ		1	7.5						7.5			横田 佳昌	横田 佳昌	
	助産診断技術学Ⅱ		1	7.5						7.5			早川 有子	早川 有子	
	助産診断技術学Ⅲ		2	15						15			中島久美子	中島久美子	
	助産診断技術学Ⅳ		1	7.5						7.5			早川 有子	早川 有子	
	助産診断技術学Ⅴ		1	7.5						7.5			早川 有子	早川 有子	
	助産診断技術学Ⅵ		2	30						30			早川 有子・中島久美子	中島久美子	
	助産管理		2	15						15			大谷美和子	大谷美和子	

必修67単位+選択科目から9単位以上選択

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	臨床看護分野 臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		1w	1w								真砂・上星・馬醫・佐藤	上星 浩子
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2w		2w							真砂・上星・馬醫・佐藤	真砂 涼子
		成人看護学実習Ⅰ	3		3w					3w				牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
		成人看護学実習Ⅱ	3		3w					3w				酒井・小池・藤巻	酒井美絵子
		老年看護学実習	4		4w					4w				伊藤・川久保・井本	伊藤まゆみ
		小児看護学実習	2		2w					2w				矢島 正栄・柴崎 由佳	矢島 正栄
		母性看護学実習	2		2w					2w				早川 有子・中島久美子	中島久美子
		精神看護学実習	2		2w					2w				小林 信	小林 信
		在宅看護実習	2		2w						2w			小笠原映子	小笠原映子
		総合実習	2		2w						2w			公衆衛生を除く学科教員全員	伊藤まゆみ
	公衆衛生看護分野	公衆衛生看護学実習		5	5w							5w		矢島・小林(亜)・廣田	小林亜由美
	助産学分野	助産学実習		11	11w							11w		早川 有子・中島久美子	中島久美子
	研究	看護研究概説	1		15						15			伊藤まゆみ・矢島 正栄	伊藤まゆみ
		卒業研究		4	60							30	30	公衆衛生看護学を除く学科教員全員	公衆衛生看護学を除く学科教員全員
計（卒業要件）					76										
卒業要件（最低）単位数					126										

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	心理学の各領域に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす。 		
関 連 科 目	教養科目：教育学，教育心理学，大学の学び入門 専門基礎科目（臨床科目）：発達心理学，臨床心理学 専門基礎科目（地域科目）：カウンセリング 専門科目：小児看護学総論，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学Ⅲ，母性看護学総論， 精神看護学総論，精神看護学Ⅰ，地域看護学概論，地域看護学Ⅰ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20％）を加味して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	心理学の歴史と方法	心理学の領域，心理学史
2	脳と心理学	脳の構造，脳の働き，高次脳機能障害
3	心の発達	発達の諸側面，子どもの発達，生涯発達心理学，発達障害
4	感覚と知覚	感覚，知覚的な体制化，奥行き知覚と知覚の恒常性，錯覚，運動の知覚
5	学習	レスポンド条件づけ，オペラント条件づけ
6	記憶と思考	記憶のしくみ，記憶の二重貯蔵モデル
7	動機づけと情動	動機づけと欲求，感情・情動，表出行動とコミュニケーション
8	性格	類型論，特性論，性格検査の信頼性と妥当性
9	対人関係と集団	対人認知，対人感情，関係の維持
10	臨床心理学Ⅰ	精神分析（フロイト），分析心理学（ユング）
11	臨床心理学Ⅱ 心理療法の技法	コラージュ療法の体験
12	臨床心理学Ⅲ 心理臨床に必要な精神医学の知識	精神障害の分類，精神障害の治療
13	臨床心理学Ⅳ カウンセリング	来談者中心療法（ロジャース）
14	臨床心理学Ⅴ 心理臨床の実践領域	教育領域の実践、福祉領域の実践、医療・保健領域の実践、司法・矯正・警察領域の実践、産業領域の実践
15	まとめ	これまでの広義の総括

教 科 書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山 祐嗣、山口 素子、小林 知博編著（北大路書房）
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	磯 部 太 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・グループワーク・発表	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	医療に関わる専門家として身につけておかなければならない生命倫理・医療倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料を適宜参照したり、ワークショップやグループワークなどを実施し能動的に学んでいきます。		
学 習 到 達 目 標	医療に関わる専門家という立場からだけでなく、医療を受ける患者や、患者の近親者の立場にたつて生命倫理的観点から多角的に考えることができるようになることを目指します。		
関 連 科 目	公衆衛生学、チーム医療論など。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中に実施するワークショップの参加レポート (30%)、平常点 (30%)、期末レポート (40%) などによる総合評価。		
準 備 学 習 の 内 容	授業の前後において、可能な範囲で、教科書や参考書の該当箇所を目を通してください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業全体のイントロダクション・生命倫理の誕生と展開1	授業全体の予定や授業の進め方などの説明 生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷
2	生命倫理の誕生と展開2	生命倫理の概要と社会的・歴史の変遷 (続き)
3	「患者-医療者」関係1	医の倫理、新しい医療のモデル、患者と医療者
4	「患者-医療者」関係2	
5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史、インフォームド・コンセントの意義
6	中絶と出生前診断・生殖技術	中絶を巡る立場と問題、様々な生殖技術、生殖技術と倫理問題
7	安楽死と治療停止1	安楽死の歴史と概要、安楽死の問題点、安楽死を巡る日本の状況、安楽死と治療停止の関係
8	安楽死と治療停止2	
9	前半のまとめ	講義前半のまとめと復習 (*授業の進捗度合いにより変更の可能性あり)
10	グループワーク	「安楽死と治療停止」をテーマにしたグループワーク
11	グループプレゼンテーション	「安楽死と治療停止」をテーマにしたグループワーク結果の発表
12	脳死	脳死問題の背景、脳死の歴史と定義、脳死の判定基準
13	臓器移植	臓器移植の歴史、臓器移植を巡る問題、臓器移植と法
14	医療の役割	健康と病気、医療の論理、医学の進歩と医学研究
15	まとめ	授業全体のまとめ、期末レポート相談

教 科 書	『バイオエシックス入門—生命倫理入門』今井道夫、香川知晶 (編)、東信堂 (第三版版; 2001年)、2500円。 *第三版を使用する。
参 考 書	『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー・トゥエンティワン (2009年) 『ケース・スタディ生命倫理と法 第2版』樋口範雄編、有斐閣 (第2版: 2012年)

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	意図的な教育は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の現場においても教育的な配慮が必要である。教員や親として、また医療従事者として必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	人の成長・発達と教育の関係を考察することや、公教育の成立の過程や現状の問題点などについて理解することを通して、教育の本質（概念・思想・理論）に迫り、対象である学習者（生徒、我が子、患者）の実態に即した望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。		
関 連 科 目	心理学・教育心理学・教育情報学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（70%）・随時実施するミニ論文などを通しての授業への参加度（30%）		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容について、シラバスや各回終了時の「次時の予告」に基づき、自分の経験などから問題意識をもっておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ヒトとは何か	ヒトの特性
2	発達	発達と学習（個の欲求）
3	教育	学習と教育（社会の要請）
4	教育内容	「覚える」と「わかる」
5		学力とは何か
6	教育方法	「教える」と「育てる」
7		学習意欲・動機付け
8	心の教育	道徳的心情の教育
9		宗教教育・人権尊重の教育
10	教育制度	近代以前
11		学校教育と教育改革
12	学校不適応	いじめ・不登校
13		
14	特別支援教育	心身の障害
15		発達障害

教 科 書	使用しない
参 考 書	講義時に適宜紹介する

授 業 科 目 名	教 育 情 報 論	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	情報の収集方法とその諸問題への対処法、倫理的問題への対応などを指導する		
学 習 到 達 目 標	本講義の内容を全員が一定のレベルまで理解し、実践できること		
関 連 科 目	情報処理		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	課題 15%、発表 15%、平常点 30%、試験 40%で総合して成績を付ける。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	情報とは何か	情報の意味と歴史
2	情報の教育とは何か	情報の教育の意義と歴史
3	情報収集の実習①	情報収集の方法と留意点①
4	情報収集の実習②	情報収集の方法と留意点②
5	情報収集の実習③	情報収集の方法と留意点③
6	情報収集の実習④	情報収集の方法と留意点④
7	情報収集の実習⑤	情報収集の方法と留意点⑤
8	情報収集の実習⑥	情報収集の方法と留意点⑥
9	情報収集の実習⑦	情報収集の方法と留意点⑦
10	情報に関する諸問題への対処①	情報処理の倫理的問題と対処法①
11	情報に関する諸問題への対処②	情報処理の倫理的問題と対処法②
12	情報に関する諸問題への対処③	情報処理の倫理的問題と対処法③
13	情報に関する諸問題への対処④	情報処理の倫理的問題と対処法④
14	情報に関する諸問題への対処⑤	情報処理の倫理的問題と対処法⑤
15	まとめ	全体の総括

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	教 育 心 理 学	単 位 認 定 者	原 芳 典
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人と人が関わる教育的出来事（事象）を体験的に振り返り、心理学的に解明・理解する		
学 習 到 達 目 標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する		
関 連 科 目	教育学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（50%）および演習への参加（意見・感想）やレポートなどの平常点（50%）		
準 備 学 習 の 内 容	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらぬが自分の教育体験をよく想起しておく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	教育心理学を学ぶ意義	ガイダンス 自らの教育体験を振り返る エクササイズ
2	高校生の心理と発達	様々な発達理論 認知の発達 仲間関係 エクササイズ
3	中学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
4	小学生の心理と発達	認知の発達 仲間関係 発達課題 エクササイズ
5	幼児の心理と発達と家庭教育	認知の発達 家族関係 エクササイズ
6	青年期の心理と課題①	青年期の発達課題 ジェンダー・アイデンティティ エクササイズ
7	青年期の心理と課題②	進路とキャリアカウンセリング エクササイズ
8	教育の実践的諸問題	いじめ 不登校 摂食障害 エクササイズ
9	自己理解	自己と他者 自己評価 自己効力感 エクササイズ
10	性格	類型論と特性論 性格検査 エクササイズ
11	特別支援①	「障害」の定義の変遷 特性とニーズ エクササイズ
12	特別支援②	高機能広汎性発達障害 アスペルガー LD ADHD エクササイズ
13	学校臨床心理学	生活の場としての学校 潜在的カリキュラム 同僚性 エクササイズ
14	保健室	養護教諭と健康相談 アセスメント エクササイズ
15	まとめ	講義のまとめと総括質問受付 エクササイズ(評価のフィードバック)

教 科 書	小山望編「教育心理学～＜エクササイズ＞で学ぶ発達と学習」建帛社 2002年
参 考 書	保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授 業 終 了 時
科 目 の 目 的	誕生、病気、医療、死、靈魂をキーワードに、医療文化を民俗学的視点から学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	現代医療の問題点を考えるための思考のレッスンをを行い、日常生活における疑問解決の方法を獲得する。		
関 連 科 目	生命倫理、家族学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（80点）、課題提出（20点）		
準 備 学 習 の 内 容	教科書を事前に読み、必要に応じて下調べをする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(1) 俗信と医療	①授業の概要と学習の進め方（オリエンテーション）
2		②「元気でね」となぜ言うのか？（「気」の文化）
3		③入院は選べないが退院は選べる？（医療と六曜）
4		④50万人も出生数が減ったのはなぜ？（丙午俗信と出産）
5		⑤なぜ厄除けをするのか？（医療と俗信）
6	(2) 身体と靈魂の民俗	⑥どうして箸を使うのか？（食事の作法）
7		⑦盲目の旅芸人「瞽女」（映像鑑賞）
8		⑧読めない名前はなぜ増える？（現代の名付け事情）
9		⑨名前はどよう付けるか？（名前といのち観）
10	(3) 看取りと死の民俗	⑩たそがれ時はどんな時？（夜の民俗と妖怪）
11		⑪ポックリ信仰と長寿者（高齢社会の民俗）
12		⑫昔、病人をカゴで運んだ（救急搬送と医療）
13		⑬畳の上で死ねないのはやくざだった（看取りと臨終の民俗）
14		⑭死はどう判定されるのか？（死の判定とタマヨビ習俗）
15		⑮人はなぜ死ぬのか？（死の儀礼と民俗）

教 科 書	板橋春夫著『叢書いのちの民俗学3生死』社会評論社、2010年
参 考 書	授業でそのつど紹介する予定。

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	参考書の内容を中心に講義を行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持・増進の方法について考えていく。		
学 習 到 達 目 標	健康と運動、環境、生命科学、老化と寿命などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。		
関 連 科 目	健康スポーツ実技、運動生理学、運動学、スポーツ医学、障害者スポーツ・レクリエーション論等		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	①出席状況 (50%) ②ミニレポート (20%) ③期末試験もしくは最終レポート (30%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の出席、ミニレポートの提出が重要。また毎回ノートを取り、講義に関する自分の考えをまとめること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体育、運動、スポーツについて
2	体力について	体力とは何か
3	生命科学の基礎	生命科学の基礎
4	身体の仕組みと運動①	身体の仕組みと運動①
5	身体の仕組みと運動②	身体の仕組みと運動②
6	運動と生活習慣病	生活習慣病と関連する要因
7	身体の発育・発達と運動	子どもの時期の運動
8	学生生活と健康	健康を維持・増進するための運動
9	老化、寿命と運動①	老化に伴う身体機能の変化
10	老化、寿命と運動②	老化と運動
11	障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツ、アダプテッドスポーツについて
12	食事と健康	運動と栄養、体重コントロール、メンタルコントロールについて
13	精神の健康	運動、栄養と心理の関わり
14	環境と健康	運動と水分補給、熱中症
15	まとめ	まとめ

教 科 書	特に指定はありません。
参 考 書	「スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ」池上晴夫著 朝倉書店 「若いときに知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 「健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一 監修 杏林書院 等

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 実 技	単 位 認 定 者	鈴 木 聡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	スポーツ実技を中心に講義を行う	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	各種のスポーツ実践を通じて、基本的技能の習得を深めるとともに、身体を動かす楽しさ・チームワークの重要性を体感することを目的とする。加えて、1年次教育プログラムの目的とするより豊かで協同的な人間関係と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。		
学 習 到 達 目 標	目標とする学生らしさを醸成するために ①挨拶と敬語の励行（相手より先に挨拶する）、「宜しくお願ひします」「お疲れ様でした」。 ②準備と後片付けをしっかりとる。 ③恕の心・感謝のできる心・謙虚な心・応援される人間の養成。 ④リーダーシップを発揮できる学生を育てる。 ⑤個人や仲間と小さい壁を乗り越えたことで達成感を体験し、上級生になったときの大きな壁に向かっていける気持ちを醸成する。 ⑥生涯にわたりスポーツを楽しむ心を育てる。		
関 連 科 目	健康スポーツ理論 運動生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	①平常点 (30%) ②態度 (30%) ③意欲 (30%) ④理解度 (10%) の総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	体力測定
2	実技	ソフトボール（ボール作り、キャッチボール）
3	実技 1	ソフトボール（連続キャッチボール）
4	実技 2	ソフトボール（トスバッティングと守備練習）
5	実技 3	ソフトボール（守備練習、内野外野分かれて練習）
6	実技 4	ソフトボール（練習試合）
7	実技 5	ソフトボール（練習試合）
8	実技 6	ソフトボール（リーグ戦）
9	実技 7	ソフトボール（リーグ戦）
10	実技 8	ソフトボール（リーグ戦）
11	実技 9	ソフトボール（リーグ戦）
12	実技 10	ソフトボール（リーグ戦）
13	実技 11	ソフトボール（リーグ戦）
14	実技 12	ソフトボール（リーグ戦）
15	実技	体力測定
		※毎回基礎体力作りトレーニングあり ※上達具合により進捗に変更あり

教 科 書	使用せず
参 考 書	使用せず

授 業 科 目 名	英 語 I	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組むための力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力をつける。		
学 習 到 達 目 標	読解力とリスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II 英語講読 I, II 広くは看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	前期末試験 (90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: CD を聴いて各 Unit の練習問題を予習する。Transcript を読む。 Conversation: 医療・看護英単語、英語表現を覚える。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction	授業の説明、自己紹介
2	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 1	The World Population 急に話しかけられた時の対応
3	(Reading) Unit 2 (Conversation) Unit 1	The World Population 急に話しかけられた時の対応
4	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 2	Fat Tax 自己紹介の英語表現
5	(Reading) Unit 4 (Conversation) Unit 2	Fat Tax 自己紹介の英語表現
6	(Reading) Unit 6 (Conversation) Unit 3	Light Pollution 丁寧な質問の仕方、数字の読み方
7	(Reading) Unit 6 (Conversation) Unit 3	Light Pollution 丁寧な質問の仕方、数字の読み方
8	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 4	New Arcade Trend 初診の患者さんへの対応
9	(Reading) Unit 8 (Conversation) Unit 4	New Arcade Trend 初診の患者さんへの対応
10	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 5	Mine Detection 病院内の道順の尋ね方と答え方
11	(Reading) Unit 10 (Conversation) Unit 5	Mine Detection 病院内の道順の尋ね方と答え方
12	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 6	Shoe Frenzy 症状の尋ね方 1
13	(Reading) Unit 12 (Conversation) Unit 6	Shoe Frenzy 症状の尋ね方 1
14	(Reading) Unit 14 (Conversation) Unit 7	Speaking Code 症状の尋ね方 2
15	(Reading) Unit 14 (Conversation) Unit 7	Speaking Code 症状の尋ね方 2

教 科 書	関戸冬彦、Jake Arnold 他、 <i>CNN Student News (1)</i> 、朝日出版、2013 年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005 年。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	英 語 II	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。 講義と受講者の授業参加。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の継続と発展。 専門用語語彙力の継続と発展。		
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。 専門用語語彙力の発展。		
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 I 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語 I, II、英語購読 I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	後期末試験 (90%) 医療英単語テスト(10%)		
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各プリントの passage を予習する。 Conversation: 医療・看護英単語、英語表現を覚える。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(Reading) 医療系の読み物 1 (Conversation) Unit 8	Love Yourself 病歴の尋ね方
2	(Reading) 医療系の読み物 1 (Conversation) Unit 8	Love Yourself 病歴の尋ね方
3	(Reading) 医療系の読み物 2 (Conversation) Unit 9	Emotional Intelligence: The Key to Success 薬の服用の説明
4	(Reading) 医療系の読み物 2 (Conversation) Unit 9	Emotional Intelligence: The Key to Success 薬の服用の説明
5	(Reading) 医療系の読み物 3 (Conversation) Unit 10	Another Threat of Infectious Disease 予約の取り方
6	(Reading) 医療系の読み物 3 (Conversation) Unit 10	Another Threat of Infectious Disease 予約の取り方
7	(Reading) 医療系の読み物 4 (Conversation) Unit 11	The Power of the Story 手術に関する表現
8	(Reading) 医療系の読み物 4 (Conversation) Unit 11	The Power of Story 手術に関する表現
9	(Reading) 医療系の読み物 5 (Conversation) Unit 12	The Value of Touch 入院患者さんによくする質問
10	(Reading) 医療系の読み物 5 (Conversation) Unit 12	The Value of Touch 入院患者さんによくする質問
11	(Reading) 医療系の読み物 6 (Conversation)	What Will You Do for the Earth? 障害に関する表現
12	(Reading) 医療系の読み物 6 (Conversation)	What Will You Do for the Earth? Skit 作成
13	(Reading) 医療系の読み物 7 (Conversation) 劇を作る	We All Have Two Hands Skit 作成
14	(Reading) 医療系の読み物 7 (Conversation) 劇を作る	We All Have Two Hands Skit 作成
15	劇を演じる	Skit 発表会

教 科 書	Reading: プリントを使用 Conversation: 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005 年。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	1. 復習、2. 語法説明、3. 口頭練習、4. 読解、5. 作文	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	保健医療専門職に求められる国際交流、海外視察、留学などに備えて、TOEIC 受験用の練習教材を利用して、英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの力をつける。		
学 習 到 達 目 標	英語で日常生活に必要な会話ができる、日常使用される英語の文書が読める、英語でメールや手紙などを書くことができる、などの力をつける。		
関 連 科 目	英語基礎、英語Ⅰ、英語Ⅱ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストに添付された CD を使って予習と復習を行う。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Introduction to the lessons	授業の進め方、予習復習の仕方
2	Unit 1 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する
3	Unit 2 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
4	Unit 3 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
5	Unit 4 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
6	Unit 5 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
7	Unit 6 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
8	Review	Review では Unit 1-6 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。
9	Unit 7 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
10	Unit 8 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
11	Unit 9 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
12	Unit 10 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
13	Unit 11 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
14	Unit 12 Part 1-7	Part1-7 の問題をしながら役に立つ表現・語彙を学習する。
15	Review	Review では Unit7-12 で学習した表現・語彙とその用法を復習する。

教 科 書	書名：Starting on the TOEIC Test (CD 付き) 著者：安浪誠祐、Richard S. Lavin 出版社：朝日出版社 定価：1800 円＋税
参 考 書	英英辞典、英和辞典

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。		
学 習 到 達 目 標	日常生活及び看護の仕事の中で、簡単な会話ができるように進めたい。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末に筆記試験を行う。出席率と受講時の学習態度を参考の上、成績を評価する。 基準は筆記試験の成績が70%、授業の平常点が30%。		
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストのCDを参考しながら、繰り返し練習して欲しい。新しい単語を暗記し、漢字の書く練習と読む練習をすること。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発音の基本	ガイドンス、母音、四声
2	発音の練習	母音、子音、四声
3	発音の練習	音節表による読む練習
4	第1課の学習	挨拶「こんにちは」、語彙と文法
5	第2課の学習	会話「あなたは中国人ですか」、語彙と文法
6	第3課の学習	会話「健康保険証を持っていますか」、語彙と文法
7	第4課の学習	会話「家族はどんな人がいますか」、語彙と文法
8	第5課の学習	会話「あそこで少しお待ちください」、語彙と文法
9	第6課の学習	会話「少し話せます」、語彙と文法
10	第7課の学習	会話「検査室に行って検査をしてください」、語彙と文法
11	第8課の学習	会話「どうしましたか」、語彙と文法
12	第9課の学習	会話「口を開けてください」、語彙と文法
13	第10課の学習	会話「この薬を飲んだことがありますか」、語彙と文法
14	第11課の学習	会話「服をあそこに置いてください」、語彙と文法
15	第12課の学習	発音、第1課から第11課までの復習

教 科 書	医療系学生のための初級中国語 白帝社 山田真一著
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	講 義	講義の前後
科 目 の 目 的	基礎的な韓国語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。		
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・ 正確な発音をマスターする。 ・ 挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回 (40%) ・ 期末テスト (60%)		
準 備 学 習 の 内 容	授業の復習をよくすること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	第一課	<p>韓国語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学びやすい言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また音楽鑑賞などを通じて、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハングルの読み方 基本母音と基本子音の一部 ・ ハングルの読み方 基本子音 ・ ハングルの読み方 基本子音と激音 ・ ハングルの読み方 激音と濃音 ・ ハングルの読み方 合成母音 ・ ハングルの読み方 パッチム ・ ハングルの読み方まとめ <p>挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</p> <p><文法と会話></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「私は青木です」 単語と文法 ・ 「私は青木です」 文法と会話 ・ 「何人家族ですか」 単語と文法 ・ 「何人家族ですか」 文法と会話 ・ 「すみません」 単語と文法と会話 ・ 「どうぞ召し上がってください」 単語と文法 ・ 「どうぞ召し上がってください」 文法と会話 ・ まとめ
2	第二課	
3	第三課	
4		
5	第四課	
6	第五課	
7	第六課	
8	第七課	
9		
10	第八課	
11		
12	第九課	
13	第十課	
14		
15	まとめ	

教 科 書	講師作成教材使用予定 (コピー)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる 		
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学 【この科目が基盤となる専門科目】 看護学入門、看護学概論、母性看護学概論、地域看護学概論 在宅看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか
2	家族をとらえる(2)	家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期
3	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障
4	家族の機能(2)	生産機能 消費機能
5	家族のつながり(1)	家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化
6	家族のつながり(2)	家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り 家族の一体感を高める取り組み
7	家族をめぐる制度	“夫婦別姓”とはどういう問題か
8	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環
9	家庭経済(2)	生活とお金 ワーキングプア
10	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活
11	生活習慣(2)	家族と生活習慣②喫煙、③飲酒
12	ワーク・ライフ・バランス(1)	ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮
13	ワーク・ライフ・バランス(2)	家庭責任をもつ人の仕事への支援
14	ワーク・ライフ・バランス(3)	看護職としての成長と私生活の運営・充実
15	まとめ	まとめ

教 科 書	使用しない（随時プリントや資料を配布）
参 考 書	「日本型近代家族」千田有紀（勁草書房）

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。		
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・平常点(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する
13	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
14	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う
15	まとめ	全体的なまとめを行う

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2010」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	法学（日本国憲法含む）	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 （ 1 5 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。		
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。		
関 連 科 目	経済学、ジェンダー論、家族学、教育学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論	憲法・法律の役割
2	人権総論	人権とは何か
3	人権各論①	家族と人権
4	人権各論②	労働と人権
5	人権各論③	権利としての教育
6	人権各論④	刑罰と人権
7	人権各論⑤	被疑者・被告人の人権と冤罪
8	人権各論⑥	表現の自由
9	民主主義と政治制度①	民主主義と独裁政治
10	民主主義と政治制度②	参政権と選挙制度
11	民主主義と政治制度③	国民主権と象徴天皇制
12	平和①	15年戦争
13	平和②	原爆投下
14	平和③	憲法9条と自衛隊・在日米軍
15	平和④	海外派兵と改憲論
★	各回の授業内容と順番は変更することがある。	

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ 一憲法のわかる50話-』岩波ジュニア新書

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (90%)、平常点 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	環境とは	環境問題の範囲と背景
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源、食料生産と環境
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷
5	典型七公害	足尾鉍毒、四大公害病
6	有害物質による環境汚染	イタイイタイ病を事例として
7	水質汚濁 (I)	水質汚濁の原因、生活排水、BOD
8	水質汚濁 (II)	水質汚濁の対策、下水と浄化槽、多自然川づくり
9	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、紫外線
10	地球温暖化 (I)	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策
11	地球温暖化 (II)	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任
12	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー
13	廃棄物問題	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物
14	循環型社会	3R、熱回収、適正処分
15	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり

教 科 書	使用せず (プリント配布)
参 考 書	「環境白書」環境省編・ぎょうせい

授 業 科 目 名	ジ ェ ン ダ ー 論	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える		
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 従来の社会慣習、社会通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 性別を帯びた存在として社会人・生活者・市民となっていく自身の生き方をより具体的に考えることができる		
関 連 科 目	【関連する教養科目】家族学、法学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、毎回のミニツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点 8:平常点 2 を目安とする		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ジェンダー、戦後日本社会のジェンダー構造	ジェンダーとは 製造装置の回路（2つの性別分業）、一次生産物（社会資源の男性偏在）、二次生産物（女性問題）
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働
3	製造装置を読み解く(2)	第1の性別分業：社会的労働と私的労働（続）
4	製造装置を読み解く(3)	第2の性別分業：社会的労働の中の性別分業（基幹労働と周辺労働）、2つの性別分業の関係
5	生産物次元の問題（1）	一次生産物：経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物：女性問題—女性に対する暴力、とくに DV を具体例として（1）
6	生産物次元の問題（2）	二次生産物：女性問題—女性に対する暴力を例に DV(1)
7	生産物次元の問題（3）	二次生産物：女性問題—女性に対する暴力を例に DV(2)
8	生産物次元の問題（4）	ハラスメント
9	子育てとジェンダー	子育てに係る能力に男女差はあるのか？
10	児童虐待（1）	児童虐待の定義、種類、問題
11	児童虐待（2）	児童虐待の実態
12	児童虐待（3）	児童虐待の防止・対応
13	性別について公正な社会へ（1）	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿（1）
14	性別について公正な社会へ（2）	性別について公正な社会の姿（2）、社会的労働と私的労働のゆくえ
15	まとめ	まとめ

教 科 書	使用しない（プリントによる）
参 考 書	内閣府「男女共同参画白書 平成 25 年度版」

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	坂 本 祐 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。 		
関 連 科 目	関連し合う教養科目 ー心理学 個人・家族と生活 個人・家族と社会 ボランティア活動論 環境学 経済学 この科目が基盤となる専門基礎科目 ー社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 ー精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 災害看護		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点を考慮して総合的に評価する（定期試験 70%・平常点と小レポート 30%）。		
準 備 学 習 の 内 容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)①
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)②
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)③
6	地域と家族(1)	近代家族の誕生、労働環境の変化と家族
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価 新しい公共
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク
15	まとめ	講義内容の振り返り

教 科 書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、レジュメや資料を配布する。
参 考 書	「地域の社会学」森岡清志編（有斐閣アルマ）

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 実践	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。		
学 習 到 達 目 標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート(60%)。毎時間講義内容に対する意見提出に対する評価(40%)。		
準 備 学 習 の 内 容	自分の意見や考え方を表現出来るようにしておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国) 現在行っているNPO法人の活動について
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論
4	ボランティア活動の経験談	JICA派遣 (アフリカ) 矢部哲也氏
5	ボランティア活動経験談	ボランティア活動 竹澤同席 国際問題研究所所長 太田氏 竹澤同席
6	ボランティア活動経験談	館林厚生病院 回復期リハビリ病棟 看護師
7	ボランティア活動のプレゼンテーション、調査開始	発表に関する資料作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。学生同志発表を採点する。質疑応答
8	同上	同上
9	プレゼンテーション開始	各グループで調査しまとめたことを発表する
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	ボランティアについて 講義全体のまとめ	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換
14	レポートの書き方	発表した結果をレポートにまとめ方指導
15	まとめ	レポート提出

教 科 書	特になし
参 考 書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ 1 福祉の心 2 障害ってなんだろう 3 老いのものがたり 4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報社

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることになります。		
学 習 到 達 目 標	1. まず経済学の基礎理論をできるようにする 2. その上で、現実の経済問題について理解できるようにする		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	平常点（学習態度、授業中に行う確認等）40%、学期末試験（筆記試験）60%		
準 備 学 習 の 内 容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう一度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価について説明
2	国民経済の仕組み	経済3主体、国民経済の仕組みと租税
3	市場メカニズムとその限界	市場メカニズムとは何か、市場の失敗
4	景気循環	景気の波、日本の「景気指標」を読む
5	物価	物価とは何か、インフレ・デフレと私たちの生活
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗
7	財政・金融政策（1）	財政政策
8	財政・金融政策（2）	金融政策
9	国内総生産（GDP）（1）	国内総生産とは何か、三面等価の原則
10	国内総生産（GDP）（2）	「国民経済計算」のデータを読む
11	経済成長	経済成長とは何か、成長要因は、日本の成長率を確認する
12	貿易・国際収支	比較優位説、国際収支とは何か、「国際収支表」を読む
13	為替レート	為替レートとは何か、為替レートの変動とその影響
14	少子高齢化と社会保障（1）	少子高齢化の経済への影響、年金問題
15	少子高齢化と社会保障（2）	医療問題

教 科 書	使用しません。当日プリントを配布します。
参 考 書	必要に応じて随時紹介します。

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、ワーク	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日、木曜日の昼休み
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ		
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル）を高める 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める（スチューデント・スキル）		
関 連 科 目	全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート（50%）、試験（20%）、受講時の意見文・感想文等の平常点（30%）		
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	科目の説明、大学生の学習・生活 アカデミック・スキルとスチューデント・スキル(杉田)	科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは
2	インターネットリテラシー（杉田）	インターネット利用のルールとマナー
3	医療・医療技術職の歴史（浅見）	医療がどのように発展・発達してきたか。それぞれの医療技術職の歴史
4	医療技術の学び（浅見）	医療技術者を目指すものとして、どのように学ぶか
5	教養ということについて（浅見）	医療系の学生として一般教養科目にどのように向き合っていくか
6	自身の課題を見つける（杉田）	前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す
7	相手の話を聴く（榎本）	ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。
8	自分の気持ちや考えを伝える（榎本）	グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。
9	協力して作業する（榎本）	これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する
10	聞く・読む（杉田）	授業を受ける、ノートを取る、本や資料を読む
11	考える（杉田）	直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる
12	調べる（杉田）	情報を探す
13	書く（杉田）	レポートの書き方(1)
14	書く（杉田）	レポートの書き方(2)
15	書く（杉田）	レポートの書き方(3)

教 科 書	使用しない
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	佐 藤 久 美 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	高等学校で学んだ「生物」の知識を基にして専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象と生体機能・遺伝の基礎的知識を深めることを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	以下の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の全体像を理解することを目標とする。 1. 生命を支える物質 2. 生命の単位 3. 生命活動とエネルギー 4. 細胞の増殖と分化 5. 生殖細胞の形成、受精・発生・分化 6. 遺伝のメカニズムと情報発現 7. ヒトの遺伝		
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学習到達目標の達成度を測る内容の中間試験 (40%)・定期試験 (40%)・授業への参加度 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回ともシラバスの講義内容に一致する教科書の部分を読み概要を把握しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ～ 2	生命を支える物質	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学の研究対象や方法 ・生物の多様性 ・生命現象の特質 ・水と生命との関わり ・タンパク質の構成単位、アミノ酸の構造と種類 ・タンパク質の構造と機能 ・炭水化物(糖質)の種類と役割 ・脂質の種類と役割 ・核酸の種類と構造 ・無機質(無機塩類)の種類と役割
3 ～ 4	生命の単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス(大きさや形) ・原核細胞と真核細胞の構造 ・細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている物質の合成、分解反応 ・粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソゾームとリソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割 ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリアの構造と機能 ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割
5 ～ 6	生命活動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・酵素の性質や特徴と酵素反応 ・光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成とエネルギー運搬体 ATP ・生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割(解糖系から TCA 回路、電子伝達系によるエネルギーの産生) ・産生されたエネルギーの行方

回	講義題目	講義内容
7 ～ 9	中間試験 細胞の増殖・生殖細胞の形成 細胞の分化と幹細胞 ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	1回～6回までの講義内容について問う。 ・体細胞で見られる細胞分裂（体細胞分裂）と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂 ・細胞周期とS期、G2期、M期、G1期の各期に起こる形態的・生化学的変化 ・G1期の細胞の特徴 ・細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞 ・幹細胞の医療分野における応用の可能性 ・多細胞体の体制維持とアポトーシス ・ヒトの精子と卵子の形成 ・キアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義 ・ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化の概要
10 ～ 12	遺伝のメカニズム	・DNAから染色体へ ・DNA複製機構（DNAの開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースとDNAポリメラーゼ、DNAリガーゼの役割） ・遺伝情報と形質発現の機構 ・原核細胞と真核細胞における形質発現機構の相違 ・真核細胞における形質発現の詳細 ・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構） ・性染色体の不活化 ・放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等によるDNAの損傷機構や損傷によって引き起こされる影響 ・生体の備わっているDNA修復機構
13 ～ 15	ヒトの遺伝	・ヒトの遺伝子と染色体 ・メンデルの法則とヒトの遺伝 ・家系図の表し方 ・常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病 ・伴性遺伝病、 ・ミトコンドリア病、多因子遺伝病、 ・保因者・患者の出現頻度 ・染色体とその異常 ・先天異常とその発症要因

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 【数研出版】 高校生物補助教材 総合図説生物 【第一学習社】 高校で生物を受講した人へ アメリカ版 大学生物学の教科書 1-3巻 D. サダヴァ他著 ブルーバックス 【講談社】 はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 【羊土社】 高校生物補助教材

授 業 科 目 名	数 学 基 礎	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。		
学 習 到 達 目 標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとして渡すプリントにある例題をそのつど復習して、次回の講義の前提となる基礎力を確実に得ておくことが準備学習である。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	日 置 英 彰
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授 業 の 前 後
科 目 の 目 的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基礎を習得する。		
学 習 到 達 目 標	医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。		
関 連 科 目	生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (8 0 %) , 受 講 状 況 (2 0 %)		
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	化学の立場から医療を考える	歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。
2	共有結合化合物と有機分子	生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特有な形、一般的な性質について解説する。
3	有機化合物各論	アルコール、エーテル、カルボン酸、アミン等の性質について解説する。
4	生体を構成する有機化合物	糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。
5	水の性質と物質の状態変化	ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態 (気体, 液体, 固体) について解説する
6	酸と塩基	酸, 塩基, 緩衝液について解説する。
7	酸化と還元	物質の酸化と還元, 生体内での酸化還元反応について解説する。
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる

教 科 書	医・薬・看護系のための化学 Alan Jone 著 原 博, 荒井貞夫訳 東京化学同人
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	文型練習、発音練習、文法の説明	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	英語の文法で学生の理解が不足している部分を復習する。		
学 習 到 達 目 標	語順と文型、動詞の時制、準動詞、句と節の用法などを理解する。		
関 連 科 目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語表現		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業の課題・小テスト(40%)と期末テスト(60%)で総合的に評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	テキストとプリントの予習と復習をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	Unit 1, 2, 3	be 動詞、一般動詞、未来形
2	Unit 4, 5, 6	助動詞、冠詞、代名詞
3	Unit 7, 8	前置詞、接続詞
4	Unit 9, 10	比較、進行形、
5	Unit11, 12	to 不定詞、動名詞
6	Unit13, 14	受動態、現在完了
7	Unit15, 16	関係詞、仮定法
8	Review	まとめ

教 科 書	書名：Simply Grammar 著者：斎藤喜久志、城一道子 発行所：南雲堂 定価：1800 円＋税
参 考 書	英英辞書、英和辞書、和英辞書

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	在室時随時
科 目 の 目 的	看護学を学ぶにあたって必要な人体の構造の基本を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な構造を説明できる。基本的な解剖学用語を知っている。		
関 連 科 目	解剖学Ⅱ、生理学、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験90% 平常点10%		
準 備 学 習 の 内 容	膨大な学習内容です。必ずシラバスに沿って教科書を読んできてください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	オリエンテーション	解剖学とは何か 器官とその系統 組織と細胞 (上皮組織、支持組織)
2	人体のあらまし	組織と細胞 (筋組織、神経組織) 人体の外形と方向用語
3	骨格系	骨学総論
4	骨格系	頭部の骨
5	骨格系	脊柱 胸郭 上肢の骨
6	骨格系	下肢の骨格
7	筋系	筋学総論 頭頸部の筋
8	筋系	体幹の筋
9	筋系	上肢・下肢の筋
10	脈管系	血管総論 心臓
11	脈管系	動脈系
12	脈管系	静脈系 胎生期の循環 リンパ系
13	脈管系	リンパ系器官 血液・血球・造血組織
14	内臓	消化器総論 口腔
15	内臓	咽頭 食道 胃 腸
16	内臓	肝臓 胆嚢 膵臓
17	内臓	呼吸器総論 鼻腔 副鼻腔 咽頭 喉頭 気管と気管支
18	内臓	肺
19	内臓	泌尿器系
20	内臓	男性生殖器
21	内臓	女性生殖器 腹膜
22	内臓	内分泌系
23	神経系	神経系総論 脊髄
24	神経系	延髄 橋 小脳 中脳 間脳
25	神経系	大脳
26	神経系	脳室と脳脊髄液 脳神経
27	神経系	脊髄神経
28	神経系	自律神経 伝導路
29	感覚器系	視覚器
30	感覚器系	平衡聴覚器 皮膚

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 解剖トレーニングノート 竹内修二 医学教育出版社
参 考 書	解剖学講義 伊藤隆原著 高野庸子改訂 南山堂 (医学部で最も一般的に使用されているテキストです。医学生に負けずに勉強してください。)

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	在室時随時
科 目 の 目 的	人体を構成する組織・発生について基本的な事項を習得する。		
学 習 到 達 目 標	人体の構造を肉眼的のみならず組織発生的にも説明できる。		
関 連 科 目	解剖学 I 生理学 生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験90% 平常点10%		
準 備 学 習 の 内 容	非常に高度な内容を含んでいます。理解するためにシラバスに沿って教科書を読んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	発生学のあらまし	受精から着床へ 発生第2週と第3週
2	発生学のあらまし	胎生第4週から第8週 胎生第3月から出生まで
3	細胞	細胞の構造
4	細胞	細胞の活動 細胞の一生
5	上皮組織	上皮組織の特徴 分類 腺
6	支持組織	結合組織
7	支持組織	軟骨組織 骨組織
8	筋組織	骨格筋組織 心筋組織 平滑筋組織
9	神経組織	神経細胞 神経線維 シナプス
10	神経組織	神経膠細胞 末梢神経の支持細胞
11	循環系	血管
12	循環系	血液 骨髄
13	循環系	リンパ
14	消化器系	口腔 歯 歯周組織 咽頭 食道 胃
15	消化器系	小腸 大腸 肝・胆・膵

教 科 書	入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 入門組織学 牛木辰男 南江堂
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	洞 口 貴 弘
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義実施日の 18 : 00 ~ 19 : 00
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患にたいしたときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養う。		
関 連 科 目	解剖学 I ・ II、生化学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	毎回授業開始直後に前回の講義内容に関する簡単な小テストを行う(出欠の意味も含めて)。 <u>前期</u> 小テストの平均点×0.6+ <u>前期</u> 期末試験の点数×0.4 で <u>前期</u> の最終的な評価を決定する。 <u>後期</u> 小テストの平均点×0.6+ <u>後期</u> 期末試験の点数×0.4 で <u>後期</u> の最終的な評価を決定する。 <u>前期</u> の最終的な評価と <u>後期</u> の最終的な評価の平均点を 本科目の最終的な評価とする。		
準 備 学 習 の 内 容	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス 生理学の基礎の基礎	生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官
2	神経の基本的機能	神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達
3		
4	筋肉の基本的機能	筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮
5		
6	神経系の機能	末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節
7		
8		
9	自律神経系	交感神経、副交感神経と内臓機能の調節
10	血液の生理学	血液の組成とその機能
11		
12	循環の生理学	心臓血管系の基本構造と機能、調節
13		
14		
15	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
16	呼吸の生理学	呼吸器系基本構造と機能、調節
17	内分泌系の機能	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能
18		
19	消化と吸収	消化管の基本構造と機能、調節
20		
21		
22	感覚の生理学	様々な感覚の受容と知覚のメカニズム
23		
24		
25		
26		
27	体温とその調節	体温の意義とその調節メカニズム
28	尿の生成と排泄および体液とその調節	腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み
29		
30	睡眠・記憶・情動	脳の高次機能

教 科 書	「シンプル生理学 第6版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)
参 考 書	「標準生理学」(医学書院) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 「ギャノン生理学」(西村書店) 「はじめの一歩のイラスト生理学」(羊土社)

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	亀 子 光 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	教科書、資料、スライド等を用いて指導する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	昼 休 み
科 目 の 目 的	生体構成成分であるタンパク質、糖質、脂質、核酸、また、細胞、酵素、ビタミン、電解質等についても学習し、臨床現場で必要となる生化学の基礎知識を身につける。		
学 習 到 達 目 標	人体の構造と機能を十分に理解し、生体がどのように維持されているかを理解する。		
関 連 科 目	化学、生物学、栄養学、薬理学、生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (80%)、課題レポート (10%)、平常点 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	教科書および配布資料の目を通しておく。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	生化学入門	生体を構成する基礎的な元素、分子を理解し、細胞の構造とその機能を学ぶ。
2 3	糖質とその代謝	三大栄養素の一つである糖質について、その構造と機能を学習し、糖質が生体内で、どのように代謝されるかを学習しながら、病態との関連についても解説する。
4 5	脂質とその代謝	三大栄養素の一つである脂質について、その構造と機能を学習し、脂質の生体内での代謝や代謝異常に起因する病態についても学ぶ。
6 7	タンパク質とその代謝	三大栄養素の一つであるタンパク質について、その特徴的な構造と機能、タンパク質を構成するアミノ酸について学習し、生体内での代謝や代謝異常に起因する病態についても学ぶ。
8 9	核酸と核酸・ポリフィリン代謝	核酸の構造・種類とその機能を学習し、核酸の生合成や代謝経路について学ぶ。
10	遺伝情報	複製、転写、翻訳などの遺伝情報について学習し、遺伝情報に基づいた疾病や治療について学ぶ。
11	電解質	ナトリウム、カリウム、クロールに代表される電解質の機能を学ぶ。
12	ホルモン	ホルモンの分類とその機能、ホルモンを産生する組織や器官について学習し、ホルモンの作用機序や疾患との関係についても学ぶ。
13	酵素	酵素の種類とその機能について学び、臨床検査で用いられる酵素の測定意義について学習する。
14	ビタミン	ビタミンの種類とその機能について学び、ビタミンの生体内での役割や欠乏症、過剰症についても学習する。
15	免疫	生体防御に関係する免疫調節機構を学習する。

教 科 書	ナーシング・グラフィカ② 人体と構造と機能-臨床生化学 三井和浩 編 (株式会社メディカ出版)
参 考 書	栄養科学イラストレイテッド 生化学 菌田 勝 編 (羊土社) 人体の構造と機能 第2版 エイレン N. マリープ著 (医学書院)

授 業 科 目 名	疾 病 の 成 り 立 ち	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。毎回指導内容を明記したプリントを配布する。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み
科 目 の 目 的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症（免疫・膠原病）、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。		
関 連 科 目	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(100%)		
準 備 学 習 の 内 容	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。すると、講義全体の流れがわかるので、それを踏まえて次回の講義を受けることができる。これが準備学習を兼ねることになる。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応。
4	代謝異常 2	細胞障害の結果としての物質沈着、脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患。
5	代謝異常 3	糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。
6	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。
7	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。
8	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治療、炎症の治療、炎症の各型。
9	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。
10	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。
11	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。
12	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因。
13	腫瘍 3	がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。
14	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。
15	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。

教 科 書	特になし
参 考 書	「系統看護学講座 専門基礎 4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。		
関 連 科 目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題
4	同 上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化
7	同 上	年齢調整死亡率の意義
8	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング
9	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法
10	同 上	結核対策、HIV 対策
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防
12	公衆衛生活動例	精神保健対策、介護保険制度
13	同 上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費
15	課題研究発表	指定課題による研究発表

教 科 書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2012/2013 版 財団法人 厚生統計協会
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。		
学 習 到 達 目 標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。		
関 連 科 目	① 解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 85%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	解剖学、生理学をよく学んでおく		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	栄養学の目的 1	・ 食と私たち ・ 食育の必要性
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割 ・ 一日のエネルギーを求める
3	栄養素の科学 1	・ 糖質の消化
4	” 2	・ 糖質の代謝
5	” 3	・ タンパク質の構造、消化、代謝
6	” 4	・ 脂質の構造と種類
7	” 5	・ 脂質の消化と代謝
8	” 6	・ 電解質とビタミン
9	” 7	・ 核酸の消化吸収代謝
10	おいしさの科学 1	・ 嗅覚と食品
11	” 2	・ 色と味
12	” 3	・ 咀嚼とテクスチャー
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方
15	まとめ	

教 科 書	新選 食品成分表 三訂版 (実教出版)
参 考 書	新体系看護学 人体の構造と機能 2 栄養生化学 (メジカルフレンド社) 看護栄養学 (医歯薬出版)

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	木曜日 12:10-13:00 (場所: 611 研究室)
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。		
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。		
関 連 科 目	特になし		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度・出欠状況 20%		
準 備 学 習 の 内 容	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史
2		障害論
3		障害者の心理
4		リハビリテーションの構成
5		医学的リハビリテーション
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方
7		地域リハビリテーション
8		社会的リハビリテーション

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一 (医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一 (金原出版)

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 I	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護とは何かについて、多角的な面から考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。		
関 連 科 目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (50%)、課題レポート (40%)、講義に関する意見 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読んでくこと ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護とは (1)	看護の定義と役割を学ぶ。専門職としての看護師について学ぶ。
2	看護とは (2)	看護とは何かについて、実践科学としての看護、看護教育制度、看護実践のための基準の側面から学ぶ。
3	看護とは (3)	ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護の機能や役割を考察する。看護とは何かについて、看護の歴史と今後の課題、国際看護、災害看護の側面から学ぶ。
4	健康とは	健康の概念を学ぶ。健康観、健康増進に対する関わりについて学ぶ。
5	保健・医療・福祉システム (1)	保健・医療・福祉の概念について学ぶ。保健・医療・福祉システムにおけるサービス提供の場について学ぶ。
6	保健・医療・福祉システム (2)	保健・医療・福祉チーム、および保健・医療・福祉におけるケア提供について学ぶ。
7	看護とは (4)	看護とは何かについて、看護サービス提供の場、看護組織の側面、看護サービスに対する評価の側面から学ぶ。看護援助を行ううえで必要な要素を学ぶ。
8	まとめ	第1～7回までの総括

教 科 書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイチンゲール著 (日本看護協会出版会) 『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学-看護学概論』川村佐和子他 (編) (メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論 II	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	看護学概論 I の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。 3. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護の本質を考える。 4. 看護援助の基本的役割について学習する。 		
関 連 科 目	看護学概論 I、基礎看護学実習 I を踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (90%)、講義に関する意見 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読んでくること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護活動の実際	基礎看護学実習 I の体験から、看護活動の実際について考察する。
2	看護職を取り巻く法的側面	看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規を学ぶ。医療事故における法的責任について考察する。
3	看護職を取り巻く倫理的側面	看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性、倫理的課題への対応を学ぶ。医療現場における道徳的ジレンマを学ぶ。
4	看護の対象について	看護の対象について、統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会、健康障害をもつ対象、ライフサイクルと健康の側面から学ぶ。
5	看護実践のための理論的根拠について	看護理論とは何かについて学ぶ。看護理論の分類、看護理論の変遷、看護理論家と主な内容について学ぶ。
6		
7	看護援助の基本的役割について	看護援助の基本役割について、コミュニケーション、教育者およびカウンセラーとしての役割、根拠に基づく援助、看護過程の展開、基本的看護技術、看護援助のマネジメントの側面から学ぶ。
8	まとめ	第 1 回～7 回までの総括

教 科 書	『ナーシング・グラフィカ⑩基礎看護学-看護学概論』川村佐和子他 (編) (メディカ出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	看 護 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後、昼休み
科 目 の 目 的	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、地域看護学の各専門領域におけるそれぞれの特色を実践的視点でわかりやすく解説し、学生個々が4年次修了までの学習をイメージできるようにし、学習の動機づけをする。		
学 習 到 達 目 標	1) 看護学の各領域の特色を表現することができる。 2) これから履修する看護学専門科目の学習に興味を持って取り組める。		
関 連 科 目	専門科目群の全科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート (100%)		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	基礎看護学の学び入門	基礎看護学の特色と4年間の学習の展望
2	成人看護学の学び入門(慢性期の看護)	成人看護学(慢性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
3	成人看護学の学び入門(急性期の看護)	成人看護学(急性期の看護)の特色と4年間の学習の展望
4	老年看護学の学び入門	老年看護学の特色と4年間の学習の展望
5	小児看護学の学び入門	小児看護学の特色と4年間の学習の展望
6	母性看護学の学び入門	母性看護学の特色と4年間の学習の展望
7	精神看護学の学び入門	精神看護学の特色と4年間の学習の展望
8	在宅看護論・地域看護学の学び入門	在宅看護論・地域看護学の特色と4年間の学習の展望

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	上 星 浩 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者との関わりが理解できることを目的とする		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の特徴、機能、役割について知る 2. 保健医療チームにおける看護師の役割について理解する 3. 病棟の特徴について知る 4. 入院患者の療養生活について理解する 5. 入院患者の身体的、精神的、社会的側面について考察する 6. 看護活動の場面を通し、看護の実際を知る 7. 目標 1~6 を通し、看護学の学習上の学びや課題を明らかにする 		
関 連 科 目	看護学概論 I ・ II の統合と、2 年次以降の看護学学習の基盤となる		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C 以上の評価となる		
準 備 学 習 の 内 容	事前課題の実施		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う
	病院実習	病院施設内の見学実習を中心に、病棟看護師と行動をともにしながら看護活動の実際や入院患者の療養生活の把握、またコミュニケーションを通し患者の入院生活に関する反応を理解する
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについてカンファレンスおよびレポート作成を行う

教 科 書	『ナーシング・グラフィカ⑩基礎看護学—看護学概論』川村佐和子他（編）（メディカ出版） 基礎看護学実習 I 実習要項
参 考 書	なし